

新たな運営基本方針を具現化するための中期行動計画（第2次）

令和6年（2024年）3月
（令和7年（2025年）3月一部修正）
熊本県立図書館

熊本県立図書館では、平成30年度に策定した「熊本県立図書館の新たな運営基本方針～知恵と力を生み出す「知の拠点」へ～」に基づき、令和元年度（2018年度）から令和5年度（2023年度）までの5年間において、中期行動計画（第1次）により様々な施策を展開し、毎年度検証を行ってきました。

この度、方針の更なる具現化を図るために、第1次における取組を踏まえ、これからの5年間において当館がめざす目標等を設定した第2次中期行動計画を策定しました。

今後は、この計画に基づいて施策を展開し、年度ごとに成果や課題の検証を行い取組の改善を図りながら、県民や利用者のニーズに対応できるよう努めてまいります。

なお、第1次計画中の当館を取り巻く状況の変化により、新たな課題も顕在化してまいりました。例えば、書庫の狭隘化に対し、資料収集・保管をどのように行っていくかという課題です。これについては、様々な角度から検討を進め、安易に資料を廃棄することで解決を図ることなく取り組んでいくことが必要です。資料収集のための予算についても同様です。他の都道府県立図書館の予算と比較した場合、当館の予算が小規模ではあるものの県民サービスをより充実させていくうえで、多くの資料を収集することは至上命題といえます。電子図書館やこども本の森熊本といった新たな取組も進めていく中、関係各所との調整を進め、引き続き予算確保に向けた努力を行っていくことが重要です。

《基本理念》

熊本を支え、発信し、創造する県立図書館
～ 知恵と力を生み出す「知の拠点」へ ～

《運営方針》

- 1 熊本の暮らしを支える
- 2 熊本の学びを支える
- 3 熊本の文化を発信する
- 4 熊本の未来を創造する

1 熊本の暮らしを支える

- 1 市町村立図書館及び公民館図書室等（以下「市町村立図書館等」という。）との連携のもと、全県域を対象にした、県民の暮らしを豊かにするための読書の推進等につながるサービスを提供します。
- 2 県民の生活や仕事の上での課題の解決を支援するためのサービスの充実を図り、情報の面から県民の暮らしを支えます。

重点取組事項

- ①全県域への資料※¹の提供
- ②市町村立図書館等への支援
- ③資料や各種サービス等の周知と利用の拡大

【第1次中期行動計画の成果と課題】

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標	2022年度の実績
総合的な満足度※ ²	73%	80%	70%
相互貸借※ ³ の貸出冊数	1,379冊	1,500冊	1,062冊
相互貸借の市町村カバー率※ ⁴	44.4%	60%	42.2%
団体貸出※ ⁵ の利用件数・貸出冊数	115件／27,633冊	130件／30,000冊	74件／18,865冊
研修会※ ⁶ の実施回数・参加者数	8回／450人	16回／800人	14回／396人

(1) 総合的な満足度

令和2年（2020年）から新型コロナウイルス感染症の拡大防止を受けて、利用者の利用形態が、従来のような長時間滞在し閲覧や調査を行うものから短時間で本を選び借りていくものへ変化し、また、市町村を支援する図書館として資料を収集している側面が利用者のニーズに必ずしも一致していないところも見受けられ、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。今後は、当館の利用状況や利用者ニーズへの対応等を考慮し、利用者により満足いただけるよう取り組むほか、この項目は中期行動計画全体の取り組みに対する利用者からの評価となっていることから、指標としての在り方を総合指標とし、総合指標であった当館入館者数を成果指標とします。

(2) 相互貸借

令和3年（2021年）2月、インターネット予約貸出（以下「遠隔地受取」という。）の開始により、県内全域において、利用者が直接、当館の資料を容易に借りることができるようになりました。今後も市町村立図書館等との相互貸借に取り組んでまいります。遠隔地受取の更なる展開を視野に入れた目標設定に変更します。

(3) 団体貸出

コロナ禍では臨時休館や利用制限等の影響を受け大幅に利用が減少、5類移行後においても影響は続き利用が伸び悩んでおり、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。市町村立図書館等の利用方法がコロナ禍以前の状況に戻っていることから、様々な機会において一括貸出事業及び子ども文庫事業を周知し、利用促進に取り組めます。

(4) 研修会の実施

新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館や参加者数制限の影響もあり、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。しかしながら、コロナ禍以降、研修のDX化が進み、研修手法も大きく様変わりしました。このことから、引き続き図書館関係職員の資質向上を目的とする研修の実施に取り組んでまいりますが、4つ目の柱である「熊本の未来を創造する」と重複しているため、重点取り組みとしての位置づけを見直します。

(5) 情報発信

資料やサービス等の利用拡大にあたっては、常に新たな手法を取り入れながら、多くの県民に届けることが求められています。従来の当館ホームページに掲載するだけでなく、SNS等を活用し積極的に情報を発信します。

第2次中期行動計画【成果指標と数値目標】

成果指標	現状 (2022年度)	5年後の目標 (2028年度末)
当館入館者数※7	216,920人／年	300,000人／年
遠隔地受取※8の推進	1,484件/3,655冊/年	1,700件/5,000冊/年
団体貸出※5の利用数	74件/18,865冊/年	130件/30,000冊/年
HP、SNS等を活用した情報の発信	480回/年	530回/年

※1…図書、新聞、雑誌、地図、視聴覚資料、デジタル資料等で図書館が収集し提供する媒体の総称。

※2…利用者アンケートにおいて、当館の総合的な満足度についての設問に「満足」「やや満足」と回答した人の割合。

※3…利用者が求める資料を提供するために、県立図書館や学校、市町村立図書館等の間で資料を貸し借りすること。

※4…県内市町村のうち、相互貸借制度により当館資料を借りた市町村立図書館等を有する市町村の割合

※5…学校や市町村立図書館等に当館の資料を大量に貸出することができるサービス。「配本協力」、「一括貸出」、「子ども文庫」があり、それぞれ利用対象や貸出期間、貸出冊数の上限等が異なる。

	利用対象の一例	貸出期間	貸出上限冊数
配本協力	市町村立図書館、公民館図書室、県立学校	4か月程度	300冊
一括貸出	市町村立図書館、公民館図書室、県立学校	1年以内	2,000冊
子ども文庫	市町村立図書館、小中学校、保育園、幼稚園	1年以内	500冊

※6…当館が主催または共催で開催する研修会及び当館職員による出前講座等。

※7…当館及びくまもと文学・歴史館、こども本の森熊本の合計入館者数。

※8…当館ホームページから、当館以外を受取館として予約し、貸出すサービス。

2 熊本の学びを支える

- 1 熊本で暮らす人や熊本で働く人々の知的ニーズに的確に対応するなど、熊本における人々の学びを支援するためのサービスの充実を図ります。
- 2 熊本県民はもとより、県外や海外の人々の、熊本について知りたい・学びたいというニーズに対応するなど、熊本についての学びを支援するためのサービスの充実を図ります。

重点取組事項

- ①調べる活動の支援
- ②レファレンス※⁹の充実
- ③インターネット等を活用した情報の提供
- ④熊本に関する資料や情報の充実

【第1次中期行動計画の成果と課題】

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標	2022年度の実績
レファレンスの件数	6,992件	18,000件	13,415件
レファレンスの満足度※ ¹⁰	65%	80%	83%
ホームページのアクセス数※ ¹¹	156,950件	250,000件	372,621件
当館利用団体等による発表会※ ¹² の実施回数	0回	10回	7回

(1) レファレンス

地道な周知と堅実な取組により、件数は計画時から約9割増しとなりましたが、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。ただし、利用者には概ね満足いただき、目標を達成しています。当館におけるレファレンス活動は、資料の貸出と並ぶ主要機能です。引き続き、県民への周知を行い、より一層の利用増加に取り組むとともに、現状に甘んじることなく利用者に満足いただけるよう、職員の資質向上に取り組めます。

(2) ホームページ

こまめな情報更新により利用者が増え、目標を大きく上回っています。今後も、更に利便性の高いホームページとなるよう、こまめな情報更新やわかりやすい画面構成に取り組むことで、利用者へ適切に情報を届けていきます。

(3) 当館利用団体による発表会

コロナ禍において臨時休館や利用制限により一部見送られ、5類移行後においても実施が伸び悩んでいます。DX化の進展により、研修会等のオンライン化など、実施形態が大きく様変わりしたことから、成果指標としての位置づけを見直します。

(4) 学びの支援

令和6年（2024年）3月に、教育を支援する目的で電子図書館を導入します。これにより当館の「調べる図書館」としての機能強化を図るほか、調査研究に役立つものであることから学校等における電子図書館の利用推進に取り組めます。

第2次中期行動計画【成果指標と数値目標】

成果指標	現状 (2022 年度)	5 年後の目標 (2028 年度末)
レファレンスの件数	13,415 件／年	18,000 件／年
レファレンスの満足度※10	83%	90%
ホームページのアクセス数※11	372,621 件／年	430,000 件／年
電子図書館の閲覧冊数	—	20,000 冊／年

※9…何らかの資料や情報を求めている利用者の質問や相談に対して、図書館職員が所蔵資料やデータベース等を活用し、回答が含まれる情報源を指示・提供すること。参考業務ともいう。

※10…利用者アンケートにおいて、レファレンス満足度についての設問に「満足」・「やや満足」と回答した人の割合。

※11…トップページへのアクセス件数。

※12…当館やくまもと文学・歴史館の資料を活用した研究等の成果を一般にも公開して開催する発表会。

3 熊本の文化を発信する

- 1 熊本の文学と歴史に関わる貴重な資料を確実に未来に継承するための取組を進めます。
- 2 先人たちが遺した優れた文化を、郷土熊本の魅力として広く県内外に発信する取組の充実を図ります。

重点取組事項

- ①貴重資料等の修復・修理の推進
- ②貴重資料等のデジタル化と提供
- ③くまもと文学・歴史館との連携

【第1次中期行動計画の成果と課題】

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標	2022年度の実績
貴重資料等の修復点数※13	4点	30点	70点
貴重資料等のデジタル化点数	5,897点	7,000点	6,535点
郷土資料の利用提供数※14	※15 10,252点	11,300点	6,965点
文学・歴史館の当館利用への影響度※16	37%	50%	43%

(1) 貴重資料等の修復点数

貴重資料の修復に携わる職員の技能向上により順調に進捗し、目標を達成することができています。当館の機能として重要な部分であり、今後も注力していかなければなりません。限られた人員の中で、この取り組みを維持できるよう引き続き人材育成を図るとともに着実に修復作業を進めていきます。

(2) 貴重資料等のデジタル化

資料のページ数による作業への影響もありますが、概ね目標を達成することができています。

DX化の進む現代において、貴重資料等を様々な形で提供できるよう積極的に取り組みます。また、図書館システムにおいて、より利便性の高いデジタルアーカイブに刷新しており、資料等のデジタル化作業を進め、掲載数を伸ばし、閲覧を促進できるよう取り組みます。

(3) 郷土資料の利用提供数

令和2年度（2020年度）から令和4年度（2022年度）に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、貸出可能な郷土資料のラインナップを増やして提供するなど、郷土に関する利用者の求めに真摯に対応しています。しかしながら、書庫で保管している郷土資料の提供冊数はコロナ禍以降、利用者の利用形態が、従来のような長時間滞在し閲覧や調査を行うものから短時間で本を選び借りていくものへ変化したことから、指標を見直します。

(4) くまもと文学・歴史館との連携

くまもと文学・歴史館との複合施設としての魅力を発揮していくことが熊本の文化を発信することに繋がるため、互いに連携した取り組みを展開したことで、概ね目標を達成しています。今後も県民に熊本の文化を広く伝えるため、魅力あふれる展示に取り組み、効果的な情報発信により企画展来場者数の増加を目指します。

第2次中期行動計画【成果指標と数値目標】

成果指標	現状 (2022 年度)	5 年後の目標 (2028 年度末)
貴重資料等の修復資料点数※13	のべ 70 点	のべ 130 点
貴重資料のデジタル化カット数※17	6,535 枚/年	7,200 枚/年
デジタルアーカイブの閲覧数※18	—	2,000 件/年
くまもと文学・歴史館の企画展来場者数※19	R2～R4 平均 20,373 人	25,000 人/年

※13…館外委託により修復したものと専門技術者の指導を受け当館職員が修復・修理したものの点数

※14…利用者の求めに応じて、3階第2閲覧室の閉架書庫から出納した郷土資料の数。

※15…平成28年度を除く平成4年度から平成29年度の平均値。

※16…利用者アンケートにおいて、くまもと文学・歴史館を利用したことが、当館を利用するきっかけとなったかについての設問に「利用するきっかけになった」と回答した人の割合。

※17…撮影からデジタル処理までの作業が完了した資料の撮影枚数。

※18…デジタルアーカイブのトップページへのアクセス件数。

※19…企画展の開催期間中におけるくまもと文学・歴史館入館者数。

4 熊本の未来を創造する

- 子どもたちの読書活動の推進など、人生をよりよく生きる力と熊本の将来を担う力を身につけた子どもの育成につながる取組の充実を図ります。
- 各種図書館等の関係職員の資質や技能の向上につながる取組により、図書館の活動を振興するための取組を推進します。

重点取組事項

- ①子ども図書室の取組の充実
- ②学校図書館への支援の充実
- ③図書館職員等の研修の充実

【第1次中期行動計画の成果と課題】

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標	2022年度の実績
子ども図書室の貸出冊数	79,264 冊	90,000 冊	96,324 冊
おはなし会の参加者数	1,415 人	1,500 人	307 人
子ども文庫※ ²⁰ の利用件数・貸出冊数	26 件／7,813 冊	35 件／10,000 冊	11 件／4,135 冊
研修会の実施回数・参加者数【再掲】	8 回／450 人	16 回／800 人	14 回／396 人

(1) 子ども図書室の貸出冊数

コロナ禍では臨時休館や利用制限等の影響を受け大幅に利用が減少したものの、5類移行後は利用者数が徐々に回復し目標を大きく上回っています。「こども本の森熊本」が開館する令和6年（2024年）以降の、来館者の増加を見込んだ目標値を設定し取り組みます。

(2) おはなし会の開催

コロナ禍では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前予約制や参加者数の制限を行いながら開催しました。そのため、令和2年度（2022年度）時点では参加者数の目標を達成していませんが、利用者からは「人数が少ないことでゆったり参加できる」といった声もあり、参加者数にとらわれない、利用者のニーズを踏まえた指標に見直します。

(3) 子ども文庫の利用

コロナ禍では臨時休館や利用制限等の影響を受け大幅に利用が減少し、5類移行後においても影響は続き利用が伸び悩んでおり、目標を達成することができませんでした。しかしながら、市町村立図書館等において児童用資料を収集し提供する取組が進み、子ども文庫は一定の役割を果たしたことから、指標からは削除します。

その一方で、令和6年（2024年）3月に、導入予定の電子図書館では、教育を支援することを目的としており、児童生徒の学びを支援する存在になることを目標としています。このことから、より実態を反映するものとして電子図書館を指標とします。

(4) 研修等の実施

新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館や参加制限の影響もあり、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。コロナ禍以降、研修のDX化

が進み、研修手法が様変わりしていることから指標を見直します。

また、当館が主催若しくは共催して実施した研修のほか、学校等からインターンシップや施設見学等を受け入れ、当館の資料や各種サービス等について講義しました。今後は、研修等の機会は可能な限り維持し、質の高い研修の企画・運営に取り組めます。

(5) こども本の森熊本の開館

令和6年（2024年）春に開館するこども本の森熊本が本との出会いの場として親しまれるとともに、魅力あふれる運営を行い、多くの来館者を迎えることが出来るよう取り組みます。

第2次中期行動計画【成果指標と数値目標】

成果指標	現状 (2022年度)	5年後の目標 (2028年度末)
子ども図書室の貸出冊数	96,324冊／年	120,000冊／年
おはなし会の実施回数	38回／年	48回／年
電子図書館の閲覧冊数【再掲】	—	20,000冊／年
研修の満足度※21	—	85%
こども本の森熊本の入館者数※22	—	20,000人

※20…学校や市町村立図書館等に当館の資料を大量に貸出することができるサービスの一つ。

※21…当館が主催または共催で開催した研修会において実施したアンケートに「満足」「やや満足」と回答した人の割合。

※22…こども本の森熊本の入館者数。

○こども本の森 熊本

≪県民参加型の運営≫

開館に向けては、「こども本の森」が未来を担う子どもたちの夢を育む新たな熊本の宝として、県民の皆様にも永く愛されるようにしたいと考えてまいりました。

このため、「県民参加型の運営」を目指し、県民の皆様、県経済をリードする企業の皆様、そして、県外にお住まいの方々からも、運営資金の御寄附をいただきました。また、想定を大幅に上回る約2万4000冊もの図書を寄贈していただきました。

これら実施済の施策を含めて、今後も継続して取り組んで参ります。

- 1 寄贈本 （県民から寄贈いただいた本を大切に活用）
- 2 寄附金 （県民・企業から寄附を募り、運営に活用）
- 3 運営サポートボランティア （大学生の参画を促し、次は応援側へ）

【第1次中期行動計画の成果と課題】

成果指標	計画時の現状	2023年度の目標	2022年度の実績
当館入館者数※24	238,648人	300,000人	216,920人

コロナ禍では臨時休館や利用制限等の影響を受け大幅に利用が減少しました。また、遠隔地受取をはじめとする非来館型サービスの利用者は増加傾向にあり、5類移行後、利用者数は回復傾向にありますが、令和2年度（2022年度）時点では目標を達成していません。今後は、非来館型サービスの利用拡大が見込まれるため、入館者数は、「熊本の暮らしを支える」の指標とし、総合的な満足度を新たな指標とします。

第2次中期行動計画【成果指標と数値目標】

成果指標	現状 (2022年度)	5年後の目標 (2028年度末)
総合的な満足度※25	73%	85%

※23…4つの運営基本方針の具現化を目指して展開する様々な取り組みの成果を総合的に評価するための指標

※24…当館及びくまもと文学・歴史館の合計入館者数。

※25…利用者アンケート及び図書館職員アンケートにおいて、当館の総合的な満足度についての設問に「満足」・「やや満足」と回答した人の割合。